

JFBP のオンライン日本語教師ネットワークの育成

村上吉文（ブダペスト日本文化センター）

murakami.yoshifumi@gmail.com

【要約】

本稿では、日本語教育連絡会議での発表をもとに、国際交流基金ブダペスト日本文化センターの実施している中東欧における日本語教育関係者のネットワーク育成について紹介する。これまでは Facebook を中心にした情報発信を行ってきたが、中東欧日本語教育プラットフォームの公開により、Facebook ユーザーではない関係者が参加することが容易になりつつある。

1. はじめに

中東欧地域における日本語教育は近年、継承語としての日本語教育の進展や、学習者年齢の多層化など、非常に多様化が進んでいる。国際交流基金ブダペスト日本文化センター（以下、「JFBP」）は様々な情報発信を行ってはいるが、限られたリソースでこうした多様なニーズの全てに応えるのは現実的ではない。しかし、各地に分散している同じ専門性を持っている人たちを結びつけることができれば、それぞれが自律的に協力することにより、高次の目的を達成することができる。

たとえば George Couros は教師としての成長について自身の新人教師時代の経験を振り返り、以下のように述べている。

"I quickly learned that the best way to become a better educator is to have access to other teachers. "

また、教育における Connectivism を提唱している George Siemens はこのような主張の背景について、以下のように端的に述べている。

"The pipe is more important than the content within the pipe. "

JFBP もこのような考えに基づき、情報発信だけでなく、中東欧全域の日本語教育関係者のネットワークを育成する業務を実施している。本稿ではこれまで行ってきたネットワーク育成の業務について報告するとともに、2016 年に新設した「中東欧日本語教育プラットフォーム」について紹介したい。

2. JFBP におけるこれまでの教師間ネットワーク育成

2. 1 Facebook グループ

現在のところ、JFBP の実施している事業においてもっとも活発に動いている中東欧の日本語教育関係者のコミュニティは Facebook の「いいね！中東欧の日本語教育」である。この原稿の執筆時点で 297 人の参加者がいる。



図 1 : Facebook の「いいね！中東欧の日本語教育」

このグループ内では学生の作ったビデオなどの成果物が共有されたり、イベントの告知などが一般参加者により行われているが、JFBP としてグループ内で行っているネットワーク育成のための試みとしては、毎月 1 回グループ内で行われる「中東欧日本語教育ウォールチャット」があげられる。運用方法は米国の教育関係者が米国時間の毎週土曜日の朝に Twitter で行っている「#satchat」というハッシュタグを使ったチャットを参考にしてしている。主催者が「Q1」「Q2」「Q3」という形式で問いを投げかけ、参加者が「A1」「A2」「A3」という識別符をつけて答えることになっている。問いを投げかけるときには問いが文字で書かれた画像を使って他の投稿から識別されやすいようになっている。

Q3 :
今年、あたらしく学んだことは？

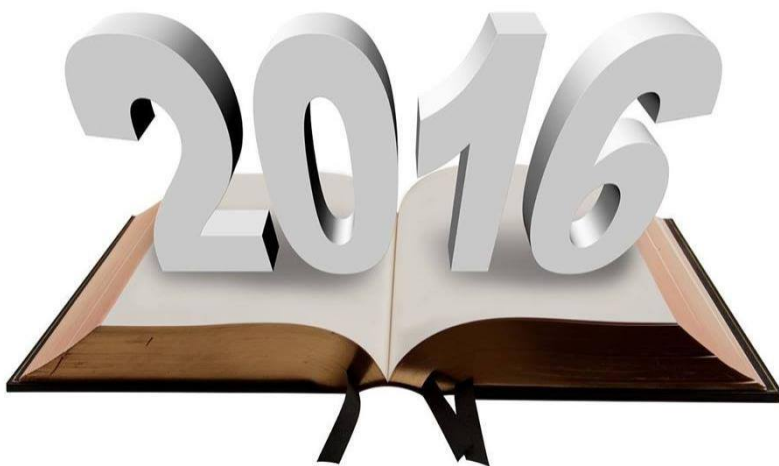


図 2 : 中東欧日本語教育ウォールチャットの問いかけ用の画像

2. 2 JFBP 日本語教師オンライン研修

上記のグループ外部の関係者が参加できるオンラインイベントとしては、JFBP 日本語教師オンライン研修がある。これは教師研修の形を取ってはいるものの、実際の目的は中東欧の日本語教育関係者のネットワークの強化である。そのため、技術的には日本の著名な講師に話していただくことも可能であるが、実際には中東欧の教員をゲスト講師にお招きしている。一度だけ例外的に北欧のゲスト講師に話していただいたことがあったが、このときは中東欧の大学とネットワークでつながることを呼びかけるものだった。

現時点で 11 回のオンライン教師研修を行い、合計視聴回数は 2,718 回、したがって、1 回あたりの平均視聴回数は 247 回である。

2. 3 JFBP 日本語教育ニュースレター

Facebook のグループなどでは最近是一般参加者の投稿も目立ってきているが、こうしたアクティブなメンバーが参加するには、主催者が定期的にポストをして、場の雰囲気을温めておかなければならない。そのためにも JFBP は日本語教育に関係するさまざまな情報発信を行っている。その中心になっているのが JFBP 日本語教育ニュースレターである。

このニュースレターは発行者が出張などで席を空けない限り、毎週 1 通ずつ発行することをめざしている。以下に、内容を報告する。

2. 3. 1 新刊情報

毎月第一週は日本語教育などの新刊情報を発信している。これには「全国書店ネットワーク」、通称「e-hon」の「新刊パトロール」という無料サービスを利用している。「新刊パトロール」に「日本語教育」などの検索用語を登録しておく、これらのキーワードを含んでいる新刊が公開されたときにメールで通知が送られてくるようになる。

2. 3. 2 話題のページ

毎月第 2 週は「話題のページ」として、インターネットユーザーが注目するウェブページの中から日本語教育を中心とする、語学学習や第二言語習得に関する情報を提供している。上記の「インターネットユーザーが注目するウェブページ」というのは 10 年前の web2.0 ブームの時に注目されたソーシャルブックマークという仕組みを利用している。日本で最大のソーシャルブックマークは「はてなブックマーク」なので、ここで「日本語教育」などのキーワードで検索し、ブックマークしたユーザーの多いものを選んでいく。

ただし、それとは別に国際交流基金の提供している情報なども同時に発信している。

2. 3. 3 最新論文

毎月第 3 週は最新論文を発信している。これは中東欧の日本語教育関係者の状況を鑑み、各種の研究機関のウェブサイトで自由に閲覧できるもののみを対処としている。閲覧やダウンロードのために料金を支払う必要がなく、またサイトに会員登録などをする必要がないものだけである。

こうした学術論文は Google スカラーというウェブサービスで情報収集している。新刊情報と同じように「日本語教育」などのキーワードを登録しておく、それらに関連する論文が公開された時にメ

ールで通知される仕組みである。研究者の名前で登録することもできる。

2. 3. 4 海外で購入できる電子書籍

毎月第4週は海外で購入できる日本語の電子書籍のランキングを紹介している。これは日本語教育などの専門性とは全く関係なく、純文学やミステリーなどの娯楽作品を含めた amazon のランキングである。ただし、女性アイドルの水着写真集のようなものがランキングに入っている場合は、こういった種類のものを除外したかを明記した上で、ランキングを編集している。

ランキングは有料編と無料編があり、無料編は文字通り無料でダウンロードできるものである。夏目漱石や太宰治などの作品も著作権の期限である死後50年が過ぎているので、無料で公開されており、ランキングに入ることがある。

2. 3. 5 今週の予定

ここまで紹介してきたニュースレターのコンテンツはそれぞれ毎月第1週などと決めており、たとえば新刊情報なら毎月1回しか共有されない。しかし、それとは別にニュースレターの最初に毎週同じ種類のコンテンツも共有している。それが「今週の予定」である。これは中東欧の各国のセミナーや学会、日本文化紹介イベントなどを対象としている。これらの情報は筆者が自分で収集した情報も含まれるが、Google カレンダーを各地の日本語教育関係者と共有して、それぞれ現地で得た情報を Google カレンダーに記入してもらうことにより得られる情報もある。カレンダーは「中東欧の日本」という名前で共有されている。このカレンダーを共同編集してくれる関係者は現在も募集中である。

* 中東欧の日本

今日 ◀ ▶ 2016年 11月 印刷 週 月 予定リスト						
月	火	水	木	金	土	日
31	11月 1日	2	3	4	5	6
				ブカレスト大学で日本語教育シ	「教師会」	
7	8	9	10	11	12	13
	ソフィア	ルーマニ	ルーマニ	JFBP文化	スロバキ	
14	15	16	17	18	19	20
		ワルシャワ大学日本文学学科主催の				
		ブカレス	他1件	他2件	他1件	他1件
21	22	23	24	25	26	27
		ルーマニアで日本映画祭				
		他2件	ブカレス	他3件	他2件	他1件
28	29	30	12月 1日	2	3	4
		ルーマニ				
予定を表示するタイムゾーン: ブダペスト				+ Google カレンダー		

図 3: Google カレンダー上の共有カレンダー

2. 3. 6 伝統行事の動画

最後に不定期ではあるが、七夕や端午の節句など日本の有名な伝統行事の一週間前をめぐり、授業で使ってもらうことを目的に、関係する YouTube 動画のリンクを共有している。

3. 中東欧日本語教育プラットフォーム

この節では、JFBP が開設したネットワーク強化のためのウェブサイト、中東欧日本語教育プラットフォーム（以下、「プラットフォーム」）www.ceeujep.org の機能について述べる。



図 4：中東欧日本語教育プラットフォーム

3. 1 データベース

プラットフォームの目的はネットワークの強化であるため、データベースは個人と機関（学校）の項目がある。

個人のデータは名前や連絡先などの他に、日本語教師としての経験の長さ、「音声」「第二言語習得」などの専門分野を選ぶことができる。専門分野の欄は、域内で同じ専門を持つ会員同士がお互いを発見できることを目的に設置されている。

ニックネームと勤務先については登録の際に入力が必須とされているが、個人情報の共有範囲は会員のみで共有される選択肢と、会員外にも共有される選択肢があり、本人がそれぞれ選ぶことができる。

なお、現在は 74 名が個人として登録されている。言うまでもなく、本人以外が許諾なく他者を登録することはできない。

3. 2 ビデオ

現状で一番コンテンツの充実しているのがビデオの欄である。サイト運営のコストを下げるためにビデオはすべて YouTube にアップロードされたものを埋め込んでいるが、個人情報の扱いに配慮し、

自己紹介動画などを始め YouTube 側では限定公開になっていて検索しても見つけれられないものもある。

ビデオは現在 59 本が共有されており、内容は主に以下の 4 種類である。

1. JFBP オンライン日本語教師研修
2. 中東欧の日本語学習者へのインタビュー
3. ブダペストで行われる中東欧日本語教育研修会やハンガリー日本語教育シンポジウムでの発表の動画
4. 域内の日本語教師の自己紹介動画

なお、これらの動画は主催者だけではなく、会員なら誰でも登録して共有することができる。



図 5：中東欧日本語教育プラットフォームにおけるビデオ共有

3. 3 情報共有掲示板

情報共有掲示板には各地域で行われるイベントの実施概要やチラシなどが共有されているが、もともとは教材などを共有することが想定されており、当初も「ダウンロード」という名称で表示されていた。もちろん、現在も教材などを共有することは可能であるが、教材が開発される頻度よりも、各地でイベントが開かれる頻度の方が多いことを考えると、今後もこうした利用方法が中心になることが考えられる。

なお、前述した JFBP 日本語教育ニュースレターも一旦はここにアップロードされ、その URL を各コミュニティで共有することになっている。

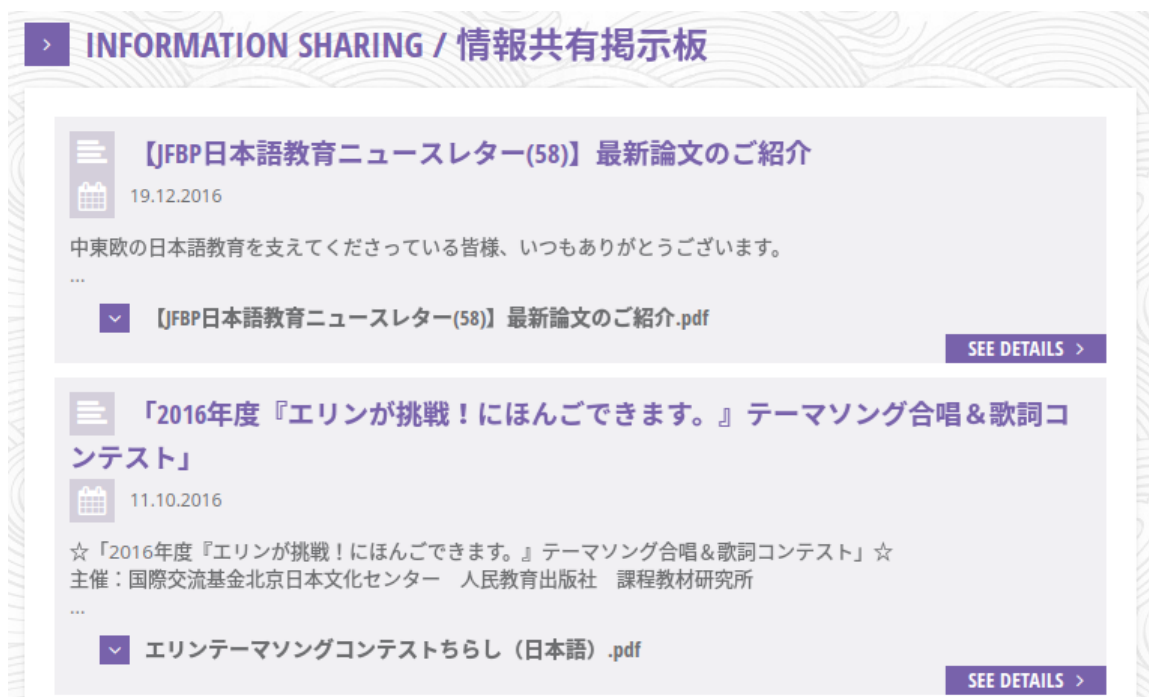


図 6：中東欧日本語教育プラットフォームにおける情報掲示板

3. 4 日本語教育 Q&A

上記の「情報共有掲示板」は参加者が情報発信するための機能だが、日本語教育 Q&A の部分は逆に情報を求める参加者が質問を書き込む機能である。「Yahoo! 知恵袋」のようなサイトをイメージしているが、今のところ利用が多いとはいえず、この機能が活用されるにはもう少しお互いの顔が見えるような関係性を構築していく必要がある。



図 7：中東欧日本語教育プラットフォームにおける「日本語教育 Q&A」

4. おわりに

本稿では、これまでに JFBP が行ってきた中東欧における日本語教育関係者のネットワーク育成のための業務と、新設された中東欧日本語教育プラットフォームについて述べた。今後とも、この地域の関係者のつながりが増え、濃くなることを望んでいる。

参考文献

いいね！中東欧の日本語教育 <www.facebook.com/groups/Duna.j.Nippon> (2016 年 12 月 3 日)

JFBP Google カレンダー 中東欧における日本

<calendar.google.com/calendar/embed?src=32tu01rni8d59d9jsf49jl18jk%40group.calendar.google.com> (2016 年 12 月 3 日)

JFBP 日本語教師オンライン研修

<www.youtube.com/playlist?list=PLPpz0hcxrj-yT8Vv7pHzaoAc_uqam6iKY> (2016 年 12 月 3 日)

全国書店ネットワーク新刊パトロール <www1.e-hon.ne.jp/content/sp_0013.html> (2016 年 12 月 3 日)

中東欧日本語教育プラットフォーム <www.ceeujep.org> (2016 年 12 月 3 日)

George Couros (2015) “The Innovator’s mindset : Empower Learning, Unleash Talent, and Lead a Culture of Creativity” Dave Burgess Consulting, Inc

George Siemens (2005) “Connectivism: A Learning Theory for the Digital Age” <http://er.dut.ac.za/bitstream/handle/123456789/69/Siemens_2005_Connectivism_A_learning_theory_for_the_digital_age.pdf> (2016 年 12 月 3 日)